

# 2019年度 第2四半期 決算説明資料

2019年11月5日  
**ブラザー工業株式会社**

当資料に掲載されている情報のうち歴史的事実以外のものは、発表時点で入手可能な情報に基づく当社の経営陣の判断による将来の業績に関する見通しであり、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績は、経済動向、為替レート、市場需要、税制や諸制度等に関するさまざまなリスクや不確定要素により大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。

## 2019年度 Q2実績

- ✓ **厳しい事業環境の中、P&Sの利益改善が進み、増益を確保**
  - ・通信・プリンティング機器は製品ミックスが改善したことに加え、消耗品がグローバルで堅調に推移
  - ・産業機器は、自動車・一般向け、IT向けとも需要が低迷
  - ・N&C事業は、通信カラオケ機器の新モデルの販売が好調に推移
  - ・ドミノは、消耗品がグローバルで堅調に推移

## 2019年度 通期見通し

- ✓ **P&Sは堅調も、マシナリーの落ち込みを吸収できず、前回予想から下方修正**
  - ・P&S事業は、為替前提を円高方向に見直したものの、上期の業績を受けて上方修正
  - ・マシナリー事業は、中国を中心とした世界経済の減速にともなう需要低迷の長期化を受け、予想を引き下げ
  - ・業績の下方修正および、株主還元方針（連結配当性向35%）に基づき、1株当たりの配当金予想を引き下げ（66円→60円）

## 厳しい事業環境の中、P&amp;Sの利益改善が進み、増益を確保

	18Q2	19Q2	増減	増減率 ( )は為替影響 除く増減率
売上収益	1,726	<b>1,593</b>	-133	-7.7% (-3.6%)
事業セグメント利益	179	<b>185</b>	6	3.6%
事業セグメント利益率	10.4%	<b>11.6%</b>		
その他の収益・費用	-21	<b>-1</b>	20	
営業利益	158	<b>184</b>	27	16.9%
営業利益率	9.1%	<b>11.6%</b>		
税引前利益	159	<b>183</b>	24	15.3%
親会社の所有者に帰属する四半期利益	120	<b>144</b>	24	20.1%
USD	111.55	<b>107.70</b>		
EUR	129.89	<b>119.83</b>		

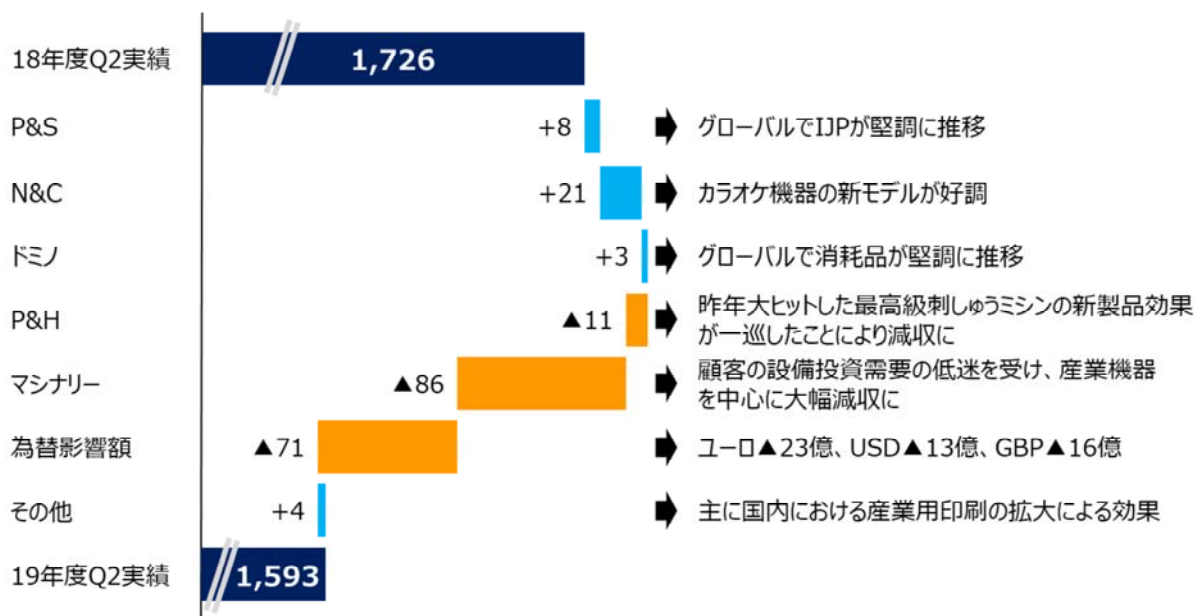
2019年度 第2四半期の連結業績ですが、  
売上収益は、1,593億円となり、  
前年からマイナス7.7%、133億円の減収となりました。  
事業セグメント利益は、185億円となり、  
前年からプラス3.6%、6億円の増益となりました。

次に、営業利益は、184億円となり、  
前年からプラス16.9%、27億円の増益となりました。

以上により、親会社の所有者に帰属する四半期利益は、  
前年からプラス20.1%の144億円となりました。

ユーロが、前年同期に比較して10円の円高となり、  
為替のみで28億円の減益要素がありましたが、  
P&S事業の利益改善が進み、増益を確保することができました。

## マシナリー事業の低迷と為替のマイナス影響により減収となる



© 2019 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

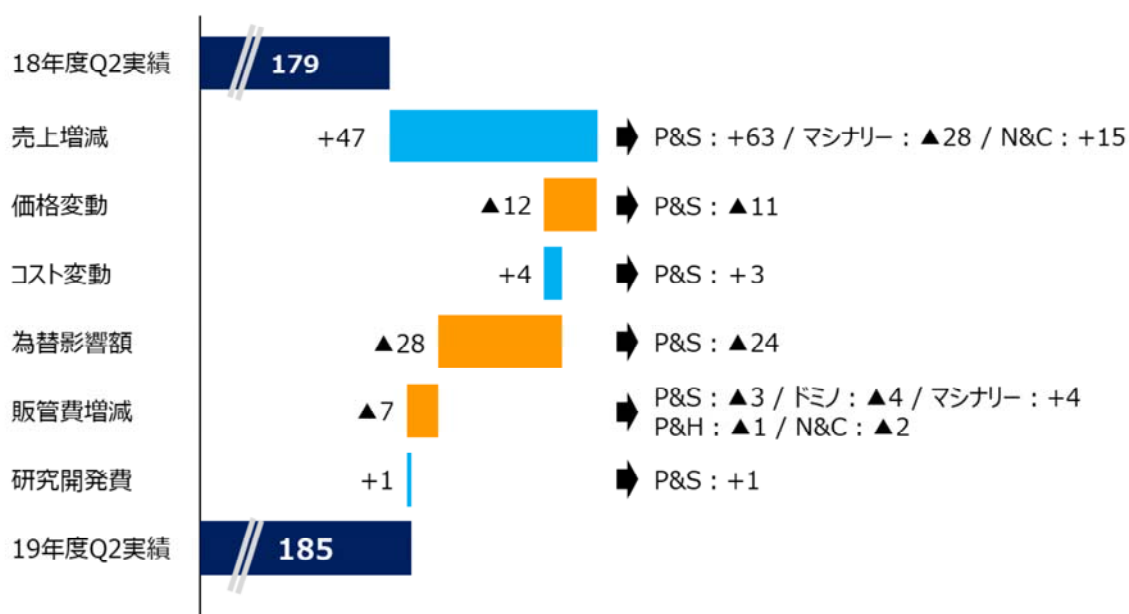
4

売上収益の増減要因です。

- ・P&Sは、グローバルでインクジェットが堅調に推移したことや、消耗品の堅調さ、また電子文具が堅調だったこともあり、実質8億円の増収となりました。
- ・N&Cは、カラオケ機器の新モデルが好調に推移し、21億円の増収
- ・ドミノは、グローバルで消耗品が堅調に推移し、実質3億円の増収。
- ・P&Hは、昨年大ヒットした最高級刺しゅうミシンの新製品効果が一巡したことに加え、クラフト事業が欧米を中心に需要が低迷したことにより、実質11億円の減収。
- ・マシナリーは、顧客の設備投資需要の低迷を受け、産業機器を中心に実質86億円の大幅な減収。

加えて為替のマイナス影響が全社で、71億円あり、全体で133億円 減収の1,593億円となりました。

## P&S事業の利益拡大により増益を確保



事業セグメント利益の増減要因です。

売上増減は、主に産業機器が減収になった影響があったものの、P&Sでの製品ミックスの改善と、消耗品売上の増加、加えてN&Cのカラオケ機器の発売効果により、47億円の増益要因となりました。

価格変動は、P&S事業において、インクタンクモデルでの、一部の国での値下げの影響や、モノクロレーザーのSMB案件獲得のための価格対応などにより、12億円の減益要因となりました。

コスト変動は、4億円の増益要因となりました。主にP&S事業における部材のコストダウンです。

為替影響額は、ユーロを中心に28億円の減益要因となりました。主にP&S事業によるものです。

販管費増減は、7億円の減益要因となりました。

研究開発費は、1億円の増益要因となりました。主に、P&Sの開発費用の減少です。

これらの結果、第2四半期の事業セグメント利益は、前年比 プラス6億円 の185億円となりました。

# 2019年度第2四半期 事業セグメント別実績

brother  
at your side

単位：億円

		18Q2	19Q2	増減
プリンティング&ソリューションズ	売上収益	992	951	-41
	事業セグメント利益	119	148	29
	営業利益	102	145	42
パーソナル&ホーム	売上収益	126	110	-16
	事業セグメント利益	12	8	-4
	営業利益	10	8	-2
マシナリー	売上収益	279	188	-91
	事業セグメント利益	29	3	-26
	営業利益	29	3	-26
ネットワーク&コンテンツ	売上収益	118	139	21
	事業セグメント利益	4	17	13
	営業利益	4	17	13
ドミノ	売上収益	176	167	-9
	事業セグメント利益	12	8	-4
	営業利益	9	9	-1
その他	売上収益	36	39	4
	事業セグメント利益	3	1	-2
	営業利益	4	3	-1
合計	売上収益	1,726	1,593	-133
	事業セグメント利益	179	185	6
	営業利益	158	184	27

※セグメント間取引消去額は含めておりません。

© 2019 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

6

# 2019年度通期 連結業績予想概要

brother  
at your side

単位：億円

	前回予想	19年度 予想	増減	18年度	増減	増減率 ( )は為替影響 除く増減率
売上収益	6,900	6,420	-480	6,840	-420	-6.1% (-2.5%)
事業セグメント利益	665	600	-65	720	-120	-16.6%
事業セグメント利益率	9.6%	9.3%		10.5%		
その他の収益・費用	-15	5	20	-0	5	
営業利益	650	605	-45	719	-114	-15.9%
営業利益率	9.4%	9.4%		10.5%		
税引前利益	650	598	-52	723	-125	-17.3%
親会社の所有者に帰属する当期利益	485	445	-40	539	-94	-17.4%
USD	110.00	108.53		110.69		
EUR	125.00	120.62		128.43		
1株当たり配当金 (円)	66.00	60.00		60.00		
連結配当性向 (%)	35.3%	35.0%		28.9%		

## ✓ P&Sは堅調も、マシナリーの落ち込みを吸収できず、前回予想から下方修正

- ・ P&S事業は、為替前提を円高方向に見直したものの、上期の業績を受けて上方修正
- ・ マシナリー事業は、中国を中心とした世界経済の減速にともなう需要低迷の長期化を受け、予想を引き下げ
- ・ 業績の下方修正および、株主還元方針（連結配当性向35%）に基づき、1株当たりの配当金予想を引き下げ（66円→60円）

© 2019 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

7

通期連結業績の予想です。

P&S事業は堅調に推移しているものの、為替の前提レートを円高方向に見直したこと、およびマシナリー事業の需要の落ち込みの長期化により、全体では、前回の予想から下方修正しています。

これにより連結業績予想は、前回見通しから

売上収益は、480億円減 の 6,420億円

事業セグメント利益は、65億円減 の 600億円

営業利益は、45億円減 の 605億円

親会社の所有者に帰属する当期利益は 40億円減 の 445億円 となる見通しです。

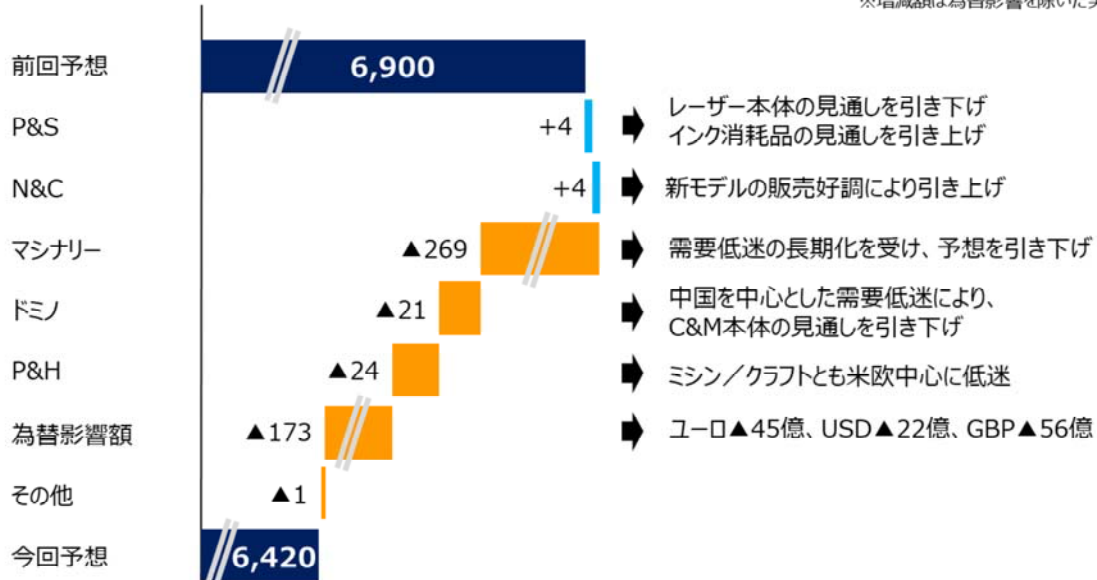
為替レートは、前回見通しから変更し、予想期間における前提レートは、

米ドルは、1ドル110円から1ドル108円へ、

ユーロは、1ユーロ125円から1ユーロ120円へと変更いたします。

## 主にマシナリーの見直し引き下げと為替のマイナス影響を織り込む

※増減額は為替影響を除いた実質ベース



次に、通期の売上収益予想の修正要因です。

・P&Sは、主に中国でのモノクロレーザーの本体売上見直しを引き下げましたが、消耗品は、米州においてインクとカラーレーザーの見直しを引上げたことに加え、日本におけるインクの消耗品売上見直しを引上げたことにより、全体としては4億円の引き上げ。

・N&Cは、新製品の好調な推移により、4億円の引き上げ

・マシナリーは、需要低迷の長期化を受け、産業機器を中心に予想を引き下げたことにより、事業全体で269億円の引き下げ

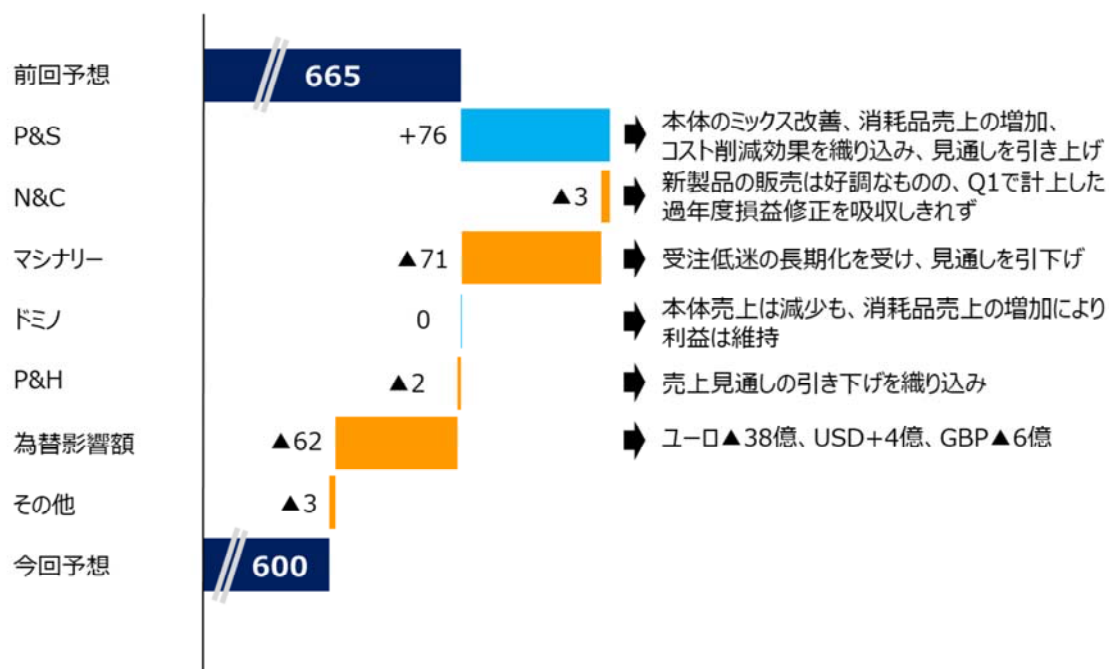
・ドミノは、中国を中心とした世界経済の減速を受け、C&Mの本体販売の見直しを引き下げ、事業全体で21億円の引き下げ

・P&Hは、家庭用ミシン、クラフト事業ともに欧米中心に需要の低迷を受け、事業全体で、24億円の引き下げ

為替影響は、前提レートを円高方向に見直したことで、ユーロを中心に、全体で173億円のマイナス影響を織り込み、その結果、本社での売上収益は、6,420億円へと見直しを引き下げました。



## P&Sは堅調も、主にマシナリー（産業機器）の減収と為替の影響を織り込む



通期の事業セグメント利益の修正要因です。

- ・P&Sは、本体のミックス改善、消耗品売上の増加、コストの削減効果を織り込み、実質76億円の引き上げ
- ・N&Cは、新製品の販売は好調なものの、第一四半期で計上した過年度の損益修正を吸収しきれず、3億円の引き下げ
- ・マシナリーは、需要低迷の長期化を受け、産業機器を中心に事業全体で71億円の引き下げ
- ・ドミノは、本体売上は減少も、消耗品売上の増加により、利益は維持
- ・P&Hは、家庭用ミシン、クラフト事業ともに売上の低迷を織り込み、2億円の引き下げ

為替影響は、前提レートを円高方向に見直したことで、ユーロを中心に、全体で62億円のマイナス影響を織り込み、その結果、全社での事業セグメント利益は、600億円へと見通しを引き下げました。

# 2019年度通期 事業セグメント別予想

brother  
at your side

単位：億円

		18年度実績	19年度予想	増減	前回予想	19年度予想	増減
プリンティング&ソリューションズ	売上収益	4,030	3,873	-157	3,975	3,873	-102
	事業セグメント利益	522	504	-18	481	504	23
	営業利益	529	508	-21	474	508	34
パーソナル&ホーム	売上収益	454	418	-36	452	418	-34
	事業セグメント利益	40	27	-13	32	27	-5
	営業利益	40	27	-13	32	27	-5
マシナリー	売上収益	1,041	798	-243	1,079	798	-281
	事業セグメント利益	98	15	-83	88	15	-73
	営業利益	99	14	-85	87	14	-73
ネットワーク&コンテンツ	売上収益	479	506	27	502	506	4
	事業セグメント利益	18	19	1	22	19	-3
	営業利益	16	17	1	20	17	-3
ドミノ	売上収益	712	674	-38	739	674	-65
	事業セグメント利益	39	37	-2	39	37	-2
	営業利益	29	39	10	39	39	0
その他	売上収益	122	151	29	152	151	-1
	事業セグメント利益	4	-2	-6	3	-2	-5
	営業利益	8	0	-8	-2	0	2
合計	売上収益	6,840	6,420	-420	6,900	6,420	-480
	事業セグメント利益	720	600	-120	665	600	-65
	営業利益	719	605	-114	650	605	-45

※セグメント間取引消去額は含めておりません。

# プリンティング&ソリューションズ事業 地域別売上収益・事業セグメント利益・営業利益

brother  
at your side

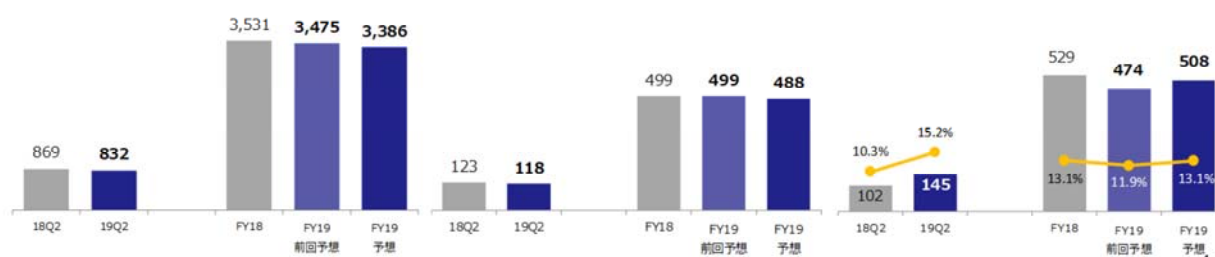
単位：億円

	18Q2	19Q2	増減率	為替影響 除く増減率	FY18	FY19 前回予想	FY19 予想	対前年 増減率	為替影響 除く増減率
売上収益	992	951	-4.1%	0.8%	4,030	3,975	3,873	-3.9%	0.2%
通信・プリンティング機器	869	832	-4.2%	0.7%	3,531	3,475	3,386	-4.1%	0.0%
米州	331	307	-7.4%	-3.1%	1,300	1,256	1,252	-3.7%	-0.3%
欧州	275	262	-4.7%	3.0%	1,162	1,146	1,101	-5.2%	1.0%
アジア他	159	150	-5.9%	-1.3%	620	652	599	-3.4%	1.3%
日本	104	114	10.1%	10.1%	448	421	433	-3.4%	-3.5%
電子文具	123	118	-3.8%	1.2%	499	499	487	-2.4%	1.6%
米州	60	56	-6.0%	-2.0%	225	226	223	-1.1%	2.2%
欧州	33	34	2.2%	10.5%	145	147	143	-1.3%	5.2%
アジア他	20	19	-6.2%	-0.9%	79	82	74	-5.7%	0.4%
日本	10	9	-6.3%	-6.3%	50	45	48	-5.2%	-9.0%
事業セグメント利益	119	148	24.3%	-	522	481	504	-3.4%	-
営業利益	102	145	41.5%	-	529	474	508	-4.0%	-

<売上収益> 通信・プリンティング機器

<売上収益> 電子文具

<営業利益>



© 2019 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

11

表の一番左側、第2四半期の前年との比較ですが、P&S事業の第2四半期の売上収益は951億円で、現地通貨ベースでは、対前年でプラス0.8%で、ほぼ前年並みの水準となりました。

内訳ですが、通信・プリンティング機器の売上収益は832億円で、現地通貨ベースでは対前年でプラス0.7%で、ほぼ前年並みの水準となりました。

地域別では、日本の伸び率がプラス10.1%となっていますが、ブラザー販売の本体・消耗品とも売上が堅調に推移したこと、および他社向けOEMの要因です（詳細はスライドP12にてご説明）

次に、電子文具の売上収益は118億円で、現地通貨ベースでは、対前年でプラス1.2%、ほぼ前年並みの水準となりました。

ラベルライター本体の販売が堅調に推移したことに加え、モバイルプリンターを中心としたソリューション分野での案件も堅調に推移しました。

事業セグメント利益は、148億円で、対前年でプラス24.3%の増益となりました。円高による為替のマイナス影響があったものの、コストダウン効果に加え、製品ミックスの改善、および消耗品が堅調に推移したことにより増益となりました。なお、営業利益は、145億円で、対前年でプラス41.5%の増益となりました。

通期の見通しについては、P&S事業では売上収益は実質引き上げ、事業セグメント利益、営業利益についても、見通しを引き上げており、P&S事業としては、上方修正となります。

# プリンティング&ソリューションズ事業 主要製品別売上伸び率・構成比

brother  
at your side

	17Q1	17Q2	17Q3	17Q4	18Q1	18Q2	18Q3	18Q4	19Q1	19Q2	17通期	18通期	19通期 (前四半期)	19通期 (今回予想)
<b>LBP</b>														
<b>売上伸び率 (円ベース/前年比)</b>														
本体	13%	24%	23%	11%	1%	-3%	-5%	-17%	-9%	-8%	17%	-6%	0%	-6%
消耗品	-1%	2%	9%	1%	1%	1%	-1%	-4%	2%	-6%	3%	-1%	-1%	-3%
<b>売上伸び率 (現地通貨ベース/前年比)</b>														
本体	12%	15%	15%	10%	2%	0%	-1%	-12%	-6%	-4%	13%	-2%	2%	-2%
消耗品	-2%	-8%	2%	-1%	1%	3%	2%	-1%	4%	-1%	-2%	1%	1%	1%
<b>IJP</b>														
<b>売上伸び率 (円ベース/前年比)</b>														
本体	3%	15%	3%	-1%	-6%	-6%	2%	-6%	-2%	8%	4%	-4%	3%	2%
消耗品	4%	3%	13%	3%	1%	-1%	-3%	-5%	1%	-2%	6%	-2%	-8%	-5%
<b>売上伸び率 (現地通貨ベース/前年比)</b>														
本体	3%	6%	-3%	-2%	-3%	-2%	6%	-1%	1%	13%	1%	-1%	5%	6%
消耗品	4%	-5%	6%	1%	1%	1%	0%	-2%	3%	3%	1%	0%	-7%	-1%
<b>消耗品比率</b>														
	57%	57%	56%	58%	58%	58%	57%	61%	60%	58%	57%	58%	58%	58%
<b>販売台数伸び率 (実績のみ/前年比)</b>														
LBP	13%	9%	10%	3%	-1%	-8%	-7%	-16%	-13%	-4%	9%	-8%	-	-
IJP	-7%	-5%	-9%	3%	-1%	-2%	-1%	-4%	0%	13%	-5%	-2%	-	-

© 2019 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

12

2019年度第2四半期の売上伸び率ですが、  
レーザーの本体売上伸び率は、本体がマイナス4%。消耗品がマイナス1%となりました。

レーザーの本体が減っているのは、主に収益性の良くないモノクロのスーパーローエンドを政策的に減らしていることや、カラーの本体販売が弱かったことによるものです。

レーザーの販売数量は  
マイナス4%と、過去4四半期と比較して、販売台数伸び率のマイナス幅が小さくなっています。  
これは他社向けOEMの減少がこの第1四半期で一巡したことによるものです。

インクジェットは本体の売上伸び率、販売台数伸び率ともにプラス13%、  
消耗品の売上伸び率がプラス3%となりました。

新興国でのインクタンクモデルは引き続き堅調に推移していることに加え、  
先進国では、通常のカートリッジタイプのA4機、  
および大容量カートリッジを搭載している先進国向けモデル  
(日本では「ファーストタンク」と呼ぶ)の本体販売が、ともに堅調に推移しました。  
インクの消耗品は、米州をのぞき、日本を中心にグローバルで堅調に推移しました。

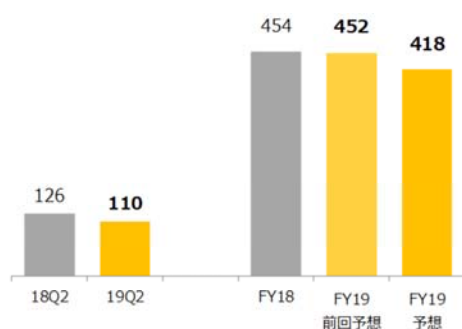
# パーソナル&ホーム事業 地域別売上収益・事業セグメント利益・営業利益

brother  
at your side

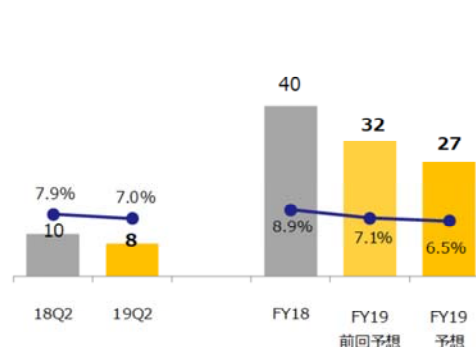
単位：億円

	18Q2	19Q2	増減率	為替影響 除く増減率	FY18	FY19 前回予想	FY19 予想	対前年 増減率	為替影響 除く増減率
売上収益	126	110	-12.7%	-8.6%	454	452	418	-8.0%	-4.3%
米州	81	69	-15.4%	-12.0%	258	250	234	-9.4%	-5.8%
欧州	25	22	-11.4%	-3.9%	111	113	101	-8.7%	-3.2%
アジア他	12	11	-3.9%	1.0%	50	54	49	-1.2%	1.5%
日本	8	8	-2.2%	-2.2%	36	35	33	-6.3%	-4.6%
事業セグメント利益	12	8	-32.1%	-	40	32	27	-33.1%	-
営業利益	10	8	-23.0%	-	40	32	27	-33.0%	-

<売上収益>



<営業利益>



© 2019 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

13

第2四半期の売上収益は110億円、  
現地通貨ベースの伸び率では、マイナス8.6%の減収となりました。

昨年発売した最高級刺しゅうミシンの新モデルの投入効果が一巡したことによる  
売上減少に加えて、欧米を中心にクラフト事業の需要が低迷したことにより  
減収となりました。

地域別では、昨年発売した最高級刺しゅうミシンの販売が好調であった米州が  
反動減で弱くなっています。

利益については、減収に加え、円高による為替のマイナス影響もあり、減益となりました。  
事業セグメント利益は、8億円で、対前年でマイナス32.1%の減益、  
営業利益は、8億円で、対前年でマイナス23.0%の減益となりました。

通期の見通しについては、家庭用ミシン、クラフト事業とも  
欧米を中心にした需要の低迷による影響を織り込み、見通しを引き下げています。

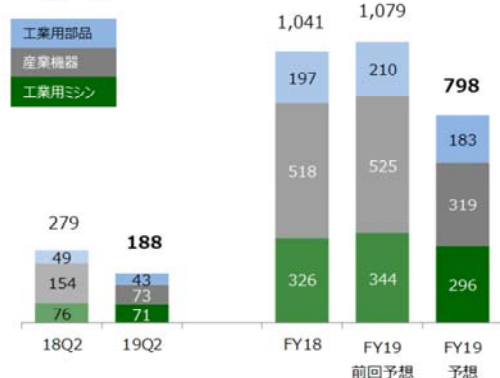
# マシナリー事業 売上収益・事業セグメント利益・営業利益

brother  
at your side

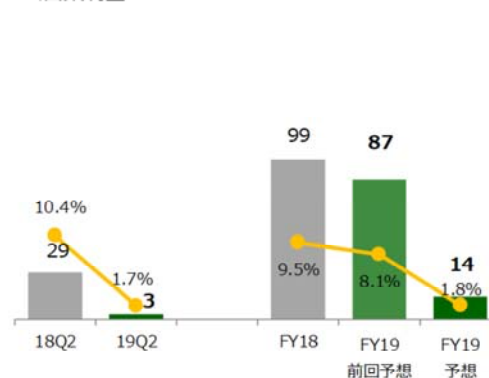
単位：億円

	18Q2	19Q2	増減率	為替影響 除く増減率	FY18	FY19 前回予想	FY19 予想	対前年 増減率	為替影響 除く増減率
売上収益	279	188	-32.8%	-31.0%	1,041	1,079	798	-23.4%	-21.6%
工業用マシン	76	71	-5.8%	-1.4%	326	344	296	-9.3%	-5.8%
産業機器	154	73	-52.5%	-51.8%	518	525	319	-38.4%	-37.4%
工業用部品	49	43	-12.5%	-11.4%	197	210	183	-7.3%	-6.1%
事業セグメント利益	29	3	-89.1%	-	98	88	15	-84.6%	-
営業利益	29	3	-89.0%	-	99	87	14	-85.9%	-

<売上収益>



<営業利益>



© 2019 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

14

次に、マシナリー事業です。

第2四半期の売上収益は、マシナリー事業全体で188億円。現地通貨ベースの対前年で マイナス31.0%の減収となりました。ほぼすべてが、産業機器での需要減による影響です。

売上収益の内訳は、

工業用マシンが71億円、産業機器が73億円、工業用部品が43億円となりました。

工業用マシンは、ガジェットプリンターは欧米を中心にグローバルで需要拡大が続いたものの、工業用マシン全体では、中国やアジアを中心に投資に慎重な姿勢が見られ、需要が低迷したことにより、事業全体で減収となりました。

産業機器は、自動車・一般機械関連向けは、主に中国及びアジアでの需要が低迷したことに加え、IT向けの売上がほぼなくなったことにより、事業全体で大幅な減収となりました。

工業用部品は、国内向けは製造業全般の製造活動鈍化や設備投資抑制の動きが高まったこと、海外向けは中国及びアジア向けの需要が低迷したことにより、減収となりました。

事業セグメント利益は、産業機器の減収の影響が大きく、

事業全体で3億円、対前年で マイナス89.1%の 大幅な減益となりました。

営業利益は、3億円、対前年で マイナス89.0%の 大幅な減益となりました。

マシナリー事業の地域別の状況は15ページに記載しておりますので 後ほどご覧ください。

通期見通しについてです。

中国及びアジアでの景気の減速による設備投資需要の低迷の長期化を織り込み、主に産業機器での売上見通しを引き下げました。

工業用マシン、工業用部品も同様に見通しを引き下げています。

事業セグメント利益、営業利益についても売上の減少による影響を織り込み、見通しを引き下げました。

# マシナリー事業 地域別売上収益

brother  
at your side

単位：億円

	18Q2	19Q2	増減率	為替影響 除く増減率	FY18	FY19 前回予想	FY19 予想	対前年 増減率	為替影響 除く増減率
<b>売上収益</b>	<b>279</b>	<b>188</b>	<b>-32.8%</b>	<b>-31.0%</b>	<b>1,041</b>	<b>1,079</b>	<b>798</b>	<b>-23.4%</b>	<b>-21.6%</b>
<b>工業用ミシン</b>	<b>76</b>	<b>71</b>	<b>-5.8%</b>	<b>-1.4%</b>	<b>326</b>	<b>344</b>	<b>296</b>	<b>-9.3%</b>	<b>-5.8%</b>
米州	16	21	27.4%	32.0%	65	71	73	11.5%	14.0%
欧州	16	15	-10.0%	-2.5%	71	75	71	-1.3%	5.9%
アジア他	41	33	-18.7%	-15.2%	181	190	143	-20.9%	-17.9%
日本	2	3	15.7%	15.7%	8	8	9	10.2%	3.6%
<b>産業機器</b>	<b>154</b>	<b>73</b>	<b>-52.5%</b>	<b>-51.8%</b>	<b>518</b>	<b>525</b>	<b>319</b>	<b>-38.4%</b>	<b>-37.4%</b>
米州	11	3	-70.5%	-	33	40	21	-35.2%	-
欧州	9	6	-36.3%	-	30	32	24	-18.6%	-
アジア他	102	38	-63.2%	-	341	324	178	-47.7%	-
日本	32	27	-16.2%	-	114	129	95	-16.4%	-
<b>工業用部品</b>	<b>49</b>	<b>43</b>	<b>-12.5%</b>	<b>-11.4%</b>	<b>197</b>	<b>210</b>	<b>183</b>	<b>-7.3%</b>	<b>-6.1%</b>
米州	6	6	-4.6%	-1.4%	25	25	24	-0.5%	0.0%
欧州	-	-	-	-	-	-	-	-	-
アジア他	5	4	-23.9%	-17.7%	22	24	20	-8.0%	-1.5%
日本	38	33	-12.2%	-12.2%	150	161	139	-7.9%	-7.8%

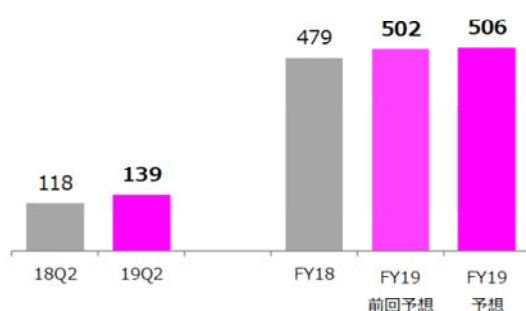
# ネットワーク&コンテンツ事業 売上収益・事業セグメント利益・営業利益

brother  
at your side

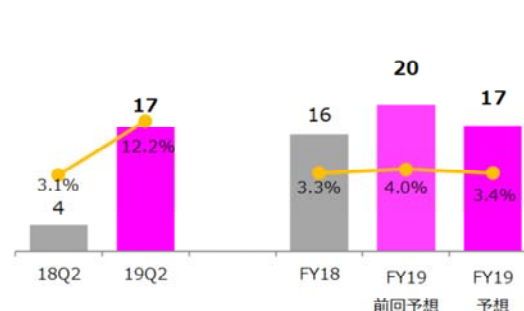
単位：億円

	18Q2	19Q2	増減率	FY18	FY19 前回予想	FY19 予想	対前年 増減率
売上収益	118	139	18.0%	479	502	506	5.6%
事業セグメント利益	4	17	339.5%	18	22	19	6.8%
営業利益	4	17	370.1%	16	20	17	6.7%

<売上収益>



<営業利益>



© 2019 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

16

次に、ネットワーク・アンド・コンテンツ事業です。

第2四半期の売上収益は、139億円、前年比でプラス18.0%となりました。6月に販売を開始した、通信カラオケ機器の新モデル「JOYSOUND MAX GO」の販売が好調に推移したことなどにより、増収となりました。

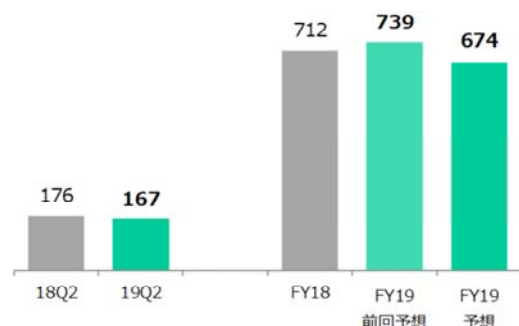
事業セグメント利益は、17億円。通信カラオケ機器の新モデルの販売が好調に推移したことなどにより、対前年でプラス339.5%の大幅な増益となりました。営業利益は、17億円。対前年でプラス370.1%の大幅な増益となりました。

通期見通しについては、売上収益については、通信カラオケ機器の新モデルの販売好調により引き上げていますが、事業セグメント利益、営業利益については、第1四半期に計上した過年度損益修正を吸収しきれず、見通しを引き下げています。

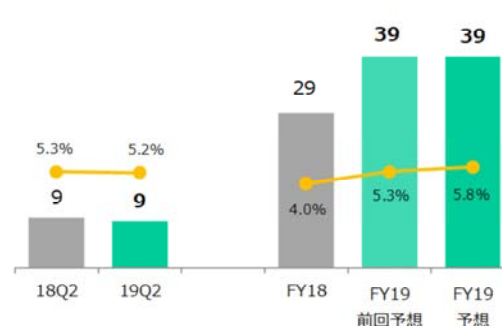


	18Q2	19Q2	増減率	為替影響 除く増減率	FY18	FY19 前回予想	FY19 予想	対前年 増減率	為替影響 除く増減率
売上収益	176	167	-5.4%	1.7%	712	739	674	-5.4%	0.8%
米州	41	42	3.8%	8.8%	159	174	158	-0.9%	5.9%
欧州	84	77	-9.2%	1.4%	358	359	336	-6.2%	0.0%
アジア他	51	47	-6.5%	-2.0%	195	207	180	-7.6%	3.8%
事業セグメント利益	12	8	-33.0%	-	39	39	37	-6.3%	-
営業利益	9	9	-7.0%	-	29	39	39	36.1%	-

&lt;売上収益&gt;



&lt;営業利益&gt;

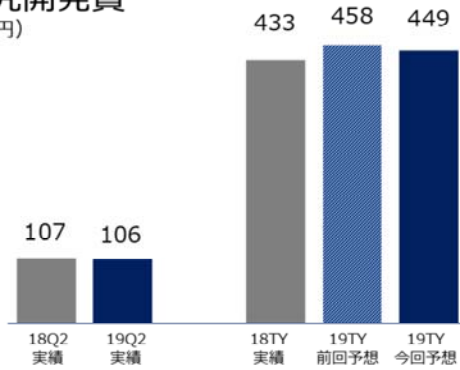


売上収益は167億円、ポンドベースの伸び率では、前年比 プラス1.7%の増収となりました。地域別では、景気減速の影響もあり、中国を中心に、主にコーディング・マーキング機器の製品本体の売上は減少したものの、消耗品は、コーディング・マーキング機器、デジタル印刷機ともグローバルで堅調に推移しました。一方で、為替のマイナス影響があり、事業全体では減収となりました。

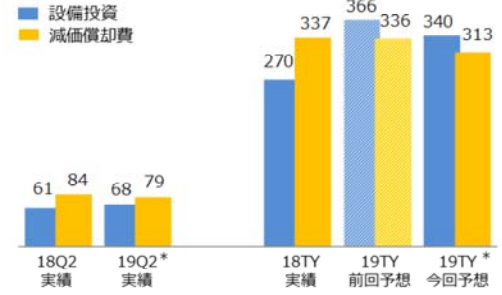
事業セグメント利益は、8億円、前年比4億円の減益となっていますが、これは、研究開発費等の先行投資増加の影響によるものです。営業利益は、9億円、前年並みとなりました。

通期見通しについては、売上収益については、中国を中心とした需要の低迷の長期化を織り込み、コーディング・マーキング本体の見通しを引き下げています。事業セグメント利益については、為替のマイナス影響により、2億の引き下げとなっていますが、本体売上の減少を消耗品売上の増加が吸収する形で、実質はほぼ計画どおりで変更していません。営業利益については、前回予想からの変更はありません。

研究開発費  
(億円)

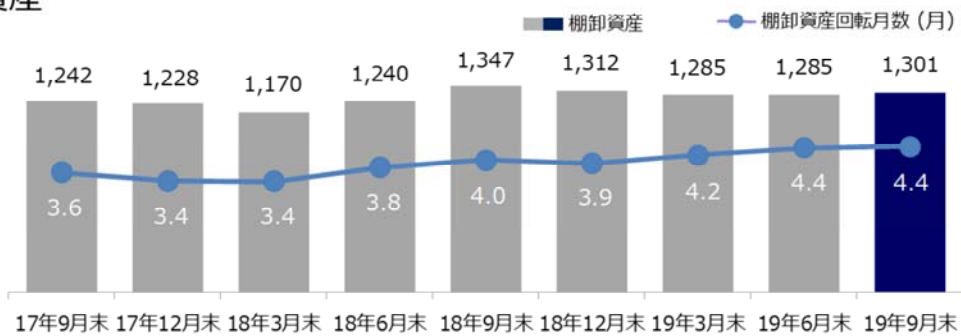


設備投資・減価償却費  
(億円)



\*IFRS第16号「リース」適用による使用権資産の取得および償却を除く

棚卸資産  
(億円)



※棚卸資産回転月数 = 棚卸資産 ÷ (1ヶ月平均売上原価)

研究開発費、設備投資、減価償却費について、  
今回の予想でそれぞれ若干引き下げておりますが、  
いずれも少額で、大きな影響はございません。

**brother**  
at your side